

直播栽培に適した良食味の東北地域向けイネ新品種「萌えみのり」

《厳しい稲作事情に臨む》

生産者の高齢化に伴う担い手不足や米価の下落により稲作はますます省力・低コスト化が求められています。そのため、苗作りの必要がない直播栽培が徐々に普及していますが、東北地域には直播栽培に適した多収の良食味品種がなく、倒れやすい移植用品種が用いられてきました。そこで、多収の「南海128号」と倒れにくい「はえぬき」を交配し、直播栽培に適し、多収で食味も良い「萌えみのり」を育成しました。

《直播栽培で倒れにくく収量が多い》

直播栽培では、株元が地面に埋まっていないため収穫の前に倒れやすくなりますが、「萌えみのり」は丈が短くて根張りが良いのでほとんど倒れません。そのため、直播栽培では「ひとめぼれ」より約20%多収です（4年間の平均）。また、より省力的な散播栽培（ばらまき）で苗の密度を高くしても倒伏せずに安定した収量を得られます（図1）。



直播栽培で倒れた「あきたこまち」(左)と立っている「萌えみのり」(右)

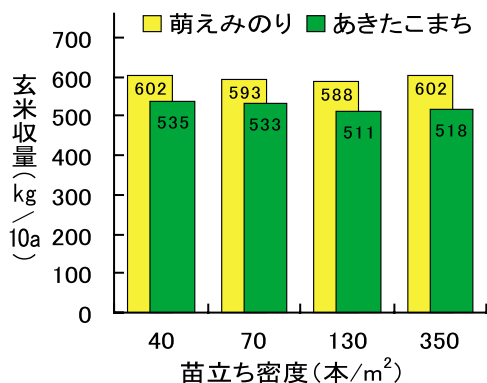


図1: 散播栽培での苗立ち密度と収量の関係 (2003~2005年平均)

低コスト稲育種研究東北サブチーム

片岡知守

KATAOKA, Tomomori



《食味が良い》

「萌えみのり」のご飯を良食味の「あきたこまち」や「ひとめぼれ」と食べ比べると同等かそれ以上においしいという結果が得られました（図2）。粒が大きく、粘りが強いのが特徴です。また、炊飯前の米が白いことから米穀店などから高い評価を得ています。

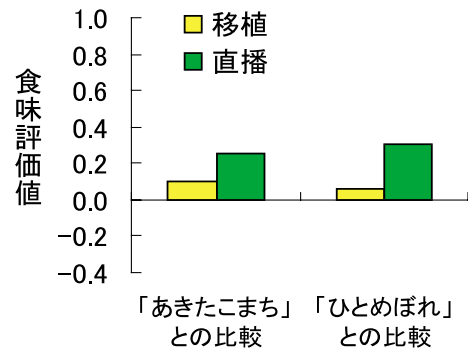


図2: 「萌えみのり」のご飯の食味試験結果 比較品種との相対評価(5~14回の平均値) -3(おいしくない)~+3(おいしい)

《栽培上の注意》

「萌えみのり」は、出穂期が「ひとめぼれ」と同じか若干早いので東北地域中部より南での直播栽培に適しています。いもち病には強くないので適切な防除を行ってください。倒れにくいですが、食味を落とさないよう多肥栽培は避けてください。

《「萌えみのり」の活用法》

直播栽培することで春に時間とハウスの余裕ができるので規模拡大や他品目との複合経営がしやすくなります。また、散播栽培が可能なのでヘリコプターによる大面積播種や、動力散布機による立地の悪い水田での作付けもできます。様々な場面で良食味米の省力・低コスト安定生産に活用されることを願っています。